

ハイスクールD×D 神騙しの邪龍

通りすがりの何か

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

いざからかおう！

ドラゴンも神も魔王も全ては玩具！

原作キャラも巻き込んで楽しい遊びをしよう。

byこの後めちやくちや怒られたドラゴンより

目次

プロローグ	1
旧校舎のディアボロス	
墮天使？それよりカレーだろ	6
悪魔でも美少女なら関係ないよね？	
12	
神は言っている……「もう勘弁して	
ください」と	17
墮天使をさらに墮天したら何になるん	
だろ	21

「あつ乳龍帝とケツ龍皇だ。」

「なんだとこの野郎!」

悪魔にも… あら?俺そつちの^玩いで二天龍^具達が悪魔攻撃してる。

いやー楽しいな、原作開始前でこんなに遊べるとか最高。

転生した時は長生きのドラゴンとか退屈で死にそうとか思ったけど神も魔王もドラゴンも、こんなに楽しい玩具になるとは思わなかったよ。

「ほーら悪魔さん達、二天龍相手だからもつと頑張れ??頑張れ??」

「殺す!」

「ワシの髪が抜けた!?!」

「主よ!それはストレスによる抜け毛です!

「え?そんな?ゴバア!?!(吐血)」

「主が瀕死だ!誰か医者を!」

「ダメです!もう死んでます!」

「そんな!」

あつ神死んだ。神が髪抜けて死んだ!ギャグかなwww

天使陣営大混乱。

「えつマジに死んだの?」

「このクソ邪龍！」

「抜け毛で死ぬってwww。」

「はー笑った笑った…… あん？」

「ひっかかったなクソ野郎（ニチャア）。」

oh…… 二天龍が一角「赤いウエルシュ・ドラゴン龍」ア・ドライグ・ゴツホさんがドラゴンとしてしちや

いけない笑顔で俺を後ろから抱きしめてきてりゅ。

「えっ？俺のこと好きなのかい!?？」

「でかした赤いの！」

「白いの！俺ごと殺れ！」

「まかせろ！二度と目覚めない封印を……！」

「その術式間違えてるぞ正しい術式はコレだぜ。」

「今の聞き取りづらい言葉はまさか！白いの、騙されるな！」

「しまった術式を間違えたコツチが正解だ。」

「白いのおおおお！（泣き）」

ニタリ、あの術式じゃ俺を封印でき……アレ？

なんか別の封印魔法が？

「天使iiiiiiii！命をもやせえええええええ！」

「悪魔どもおおお！手を抜くなよおおお！」

「えっ？嘘マジかあああああ！」

「よくやった塵芥……いや、戦友達よおおお！」

「総員、戦友たる二天龍に敬礼！」

あややだコイツら仲良くなってる

「待て玩具×2！このままだとお前らまで封印されるぞ！」

「ギャハハハハ！ザマアみやがれクソ野郎！テメエも道連れだ！」

「あんたそんなキャラだっけ!?？」

「よし術式ができたぞ赤いの！封印だ！」

「いつまで騙されてるんだ白いの!?？」

だがただでは封印されん！

「ふはははは！勝ったと思うなよ二天龍！」

「ふっ負け惜しみか。ドラゴンとして恥ずかしいな。」

「さっきまでドラゴンとしてどうなの？って振る舞いしてた赤い龍が何を言う。」

「ほっとけ！」

「だが俺は、いずれ面白そうな時に復活する！せいぜい俺がいない時は俺の事を忘れて好きに過ごすがいい！」

「はっほぎげ、そんな聞き取りづらい負け惜しみ…… あ！」

「どうした赤いの、封印が始まったぞ? …… あ！」

「しまったあああああ！」

「アヒヤヒヤヒヤヒヤ w w w w w w バーカー w w w。」

こうして俺は思ったより長く封印された、面白い時代はしばらく来なかったらしい。今やこの埼玉の地で埼玉愛を謳いながら霊体だけで現代日本を見ている。

なんで埼玉に封印されるわけ? 暇なんだけど平和で。埼玉好きだけど。

「うん? 祠?」

まあ封印も弱まってるし無理矢理解いて目の前の人間の神器にでもなつてまた遊ぼう。

「うお! なんか喉に違和感が?」

『俺の力の所有者になつたね、俺は「フリテンダー・ドラゴン詐称の龍」ひやくめんまじまのかみ百面邪ノ神…… 今、君の頭の中に

話しかけているよ♪』

「気持ち悪!」

ヒドイ?!

旧校舎のディアボロス

墮天使?それよりカレーだろ

今日は転校初日!友達100人作つたるわ!

駒王町に引つ越して来たばかりだから友達いないっす

『口下手が何を言う。友達いないのはもとからだろ?』

うるせえ!

『後この学校悪魔の巣窟だからね。』

「狩らねば!」

『美男美女の悪魔だらけだけどね。』

「美男美女?!?つまりリア充!話しかけれねえええええ!」

「何あの人ひとり言?」

「関わっちゃダメなタイプの人なんじゃ。」

「『ヒドイ?!』」

美男美女の悪魔だと、そんなオタク心を刺激する人外達とかどう接すれば良いのさ。

俺ただの体に魍魎魍魎の類が取り憑いてるだけの一般ピープルよ。

「ときに百面。」

『何?』

「死ね??」

『やだ??』

コイツどうやったら俺から離れるの!

10年前も除霊してもらおうと近所の霊媒師に頼んだら。

10年前

「埼玉! 埼玉! 埼玉! 埼玉! 埼玉! 埼玉! そう、埼玉こそ埼玉なのだ!」

「お師匠様ああああああ!」

「師匠が呪われたぞ!!?」

『埼玉あああああ!』

「この悪霊も呪われたのか?」

なんか埼玉を連呼する大会になったし、まあ普通の人間も。

「「オッパイ揉みてえええええ!」」

「「死ね! 変態ども!」」

あんま変わらんか。

「おや? 君が転入生かい?」

パツキンのイケメンが現れた(戦闘開始BGM)

「ハヒッ!ぞおでこぜえまひゆう!」

『口下手すぎて不審者!』

パツキンイケメンがドン引きした。

俺は100ダメージを受けた。

「職員室まで案内するね。」

「ひゃい。すいません。」

「うん、大丈夫大丈夫。」

神よ!イケメンとの会話は難易度高すぎます!

『残念www主は抜け毛のシヨックで死んだ!』

そんな理由で死んだの神!?!?

【なんやかんやあって】

転校初日に変態三人衆を捕まえる羽目になった!

「はなせえええええ!俺は生着替えをのぞ「黙れ。」プギイ!?!?」

まず1人!首を絞めて失神させた。

「イツセエエエエ!許s「あつ!空飛ぶパンツ!」えっ!何処!ハギユ!」

2人！保険の先生が持ってきた麻醉薬入りの注射器をシュー！超エキサイティング

！

「近寄るな化け物！あつ…… あつ…… あべし！」

3人！コースクリューブローだ！

「片付いた。」

「二でかした転入生！トドメは私たちが決める！」二

「ヒエ。」

女の子達が怖い！竹刀なのに刀身に当たった落ち葉が真つ二つ…… いやあれ細切れになつてる!!??

え？アレ閻魔大王!!?あの女の子オーラで閻魔大王を顕現させてる!!??

『最近の女の子ってみんなあんななの?』

「そうなのかなあー?」

いやあつてたまるかそんな真実

「もう放課後だし帰ろう。」

『そうね（なんか懐かしい心配がしたけどね）帰りがてら何かで遊ぼう。』

「お前の遊びは碌なことにならないだろ、それこそ墮天使の頭をおかしくさせるとか……

ちよっ！お前勝手に！」

『アヒヤヒヤヒヤヒヤ!ワロス!』

嫌な未来確定のお知らせ!

【帰り道】

「墮天使先輩ちいす!」

「な!なんだ貴様は!」

なんかコート着た一見すると露出魔か何かみたいな墮天使を発見!

「悪いけど頭おかしくなつて。本当にごめんね。」

「は?」

うん、そりゃあ何コイツみたいな顔になるよね。

「人間風情がバカにするな!この墮天使のドーナシークを!」

「ごべんなさい!これも全て俺の中に住み着いてるドラゴンの所為なんです!」

「貴様神器持ちか!ならば死ね!」

うん、ここうなるよね。

「そんなに叫ぶと近所の筋肉質の魔法少女に襲われるぞ?良いのかい?」

「は?」「によ?」あ?」

その時、不思議な事がおこつた。

突如現れた可愛^{筋肉ムキムキの変態}い魔法少女に墮天使ドーナシークは殴り飛ばされたのだ

「ごるはああああ!!?」

「バイオレンスフラツシユによおおおお!」

「こんな事があつてたまるかああああああ!」

「ふんが!……によ。」

凄え、適当に魔力を込めて言つてみたけど本当にこんな^{化け物}変態が近くにいるとか。駒王町つて魔境かよ! いや悪魔沢山いるから魔境か。

おや、マツチヨメンが光の巨人みたくに空飛んで帰つてつた

「それじゃあ身も心もボロ雑巾になつたところで。」

「や…… やめて……。」

本当にごめん

「お前はカレーの真理を知る。」

「あばばばばば!なんだこのターパンを巻いた褐色肌の男は!!?まて!その煮えたぎつた赤い液体はなん…… 辛!!?辛すぎる!だがコクがあり癖に、やはり辛い!しかし良い匂あばばばばば!!?」

お粗末!

悪魔でも美少女なら関係ないよね？

「何故ここに呼ばれたか、わかるわよね？」

「いえ、ちつともわかりません。」

「なんて？」

綺麗な悪魔のお姉さんに、尋問されています。

百面のバカ！原作開始前だからばれないさwwwって言ったのに秒で俺が昨日墮天使と戦ったってバレてるじゃん！

「失礼、まずは名乗るのが先ね。」

「あ、ハイ。」

やったー

凄く優しく喋りやすい綺麗な女の人だー！おえ、緊張で吐きそう。

「私はリアス・グレモリー、この辺りを管理している悪魔よ。」

「自分は田中太郎でしゅ！（やべ、噛んだ！）」

「田中太郎？」

「ひゃい。」

「地味ね。」

でしようとも！

「あの？」

「何かしら？」

「呼ばれた理由は？」

「昨日の墮天使。」

「俺がやりましたああああああ！」

「落ち着いて、貴方に落ち度がないのはわかってるから、だから手錠を求めするように全力で私に手を押し付けられないで！怖い！」

よかった無実だ。姉ちゃん、そして恐ろしい妹よ！俺は無実だ！だから妹よお願いだから修行の旅から帰ってこないで！

『お前の妹どんだけ怖いんだよ。』

『仕方ねえだろ、昔フェニックスって悪魔さん達が泣きながら俺に娘さんと俺の妹の喧嘩（という名の妹による一方的なイジメ）の仲裁を頼んでくるようなバケモンだぞ！……て言うかお前も見てたよな。』

『怖かったので、途中から見てない。』

『ならやむなし。』

しかしこの部屋、趣味悪いな。悪魔でも召喚するんか？

『この子悪魔じゃん。』

そうだった。

「さて、質問だけど。どうやって墮天使を撃退したの？」

「神器で倒しました。出てこい百面。」

『え？』

俺が百面の名を呼ぶと、小さな6本の腕をもつ虹色の蛇が現れた。

「え？」

「これが俺の神器、『きよげんほうてん虚言法典』です。」

「なんで俺実体化してんの!?? こんな機能知ら「少し黙れ。」むぐむぐ!??」

「名前から察するに嘘を信じさせる神器かしら？」

「嘘に限らず、言葉ならなんでも。あと言葉にしたことを無理のない範囲で実現できま
す。」

「まあ凄いい。」

「言葉を現実にするには、「恐竜に襲われる」の場合近くに恐竜がいないと起こらないと
か、「悪魔になる」だと道具が手元にないと実現できないとか、普通に限界がありますけ
どね。」

意外と地味な神器なんだよなコレ。

「素直に神器の能力を話したのは、私に敵意がないことを示すためかしら。」

「はい、悪魔はいちいち敵対してもしょうがないですから。」

「悪魔のことはどこで？」

「実家が日本神話陣営と繋がりがありません。」

「なるほど。」

「あと妹が教会陣営に嫁修行がてらエクソシストをボコリに行ってます。」

「なんて？」

「妹が剣技を鍛えに教会に殴り込みに。」

「なおいわらないわ！」

だよね、俺もわけわからんもん。

美人つてこめかみを押さえて目を閉じてるだけでも絵になるな（現実逃避）。

「妹さん元気？」

「教会から血文字で書かれた苦情が届きます。」

「元気そうね…… お茶でも飲む？」

「いただきます。」

凄えなこの人、表情青ざめてるのに優しい笑顔のまんまだ。

「部長、ただいま戻りました。」

「朱乃、お帰りなさい。悪いんだけど紅茶を入れてもらえるかしら。」

「アレ？ 姫島さん!!?」

「え？ 田中君？」

「え？ 2人は知り合いな「ヒイイイイイイ！ 申し訳ありません太郎様！ 今すぐ靴をお舐めます！」 朱乃!!?」

「いや舐めなくても良いですから!!? 妹がすいません！」

「貴方の妹何したの!!?」

どうしよう、百面さつきから喋れてないから後でめちやくちやからかって来そう。

後この学園、姫島さんも通ってるのか

神は言っている……。「もう勘弁してください」と

前回のあらすじ 「ヒイイイイイイ！申し訳ありません太郎様！今すぐ靴をお舐めします！」

「主よ、妹のやらかしをなかったことにしてください。」

『残念、主はハゲてシヨック死した。(俺が元凶www)』

このドラゴンをグーで殴りたい！

あの後荒ぶる姫島さんを正気に戻すの苦労したな

グレモリー先輩も泣きながら正気に戻って！お願いだから！って姫島さんに関節技決めてたし

「なんで姫島さん正気に戻すの手伝わなかったんだ？性悪友達0人へッポコど腐れドラゴン。」

『逆になんで俺が手伝うと思った？本編開始2話目でようやく明らかになった名前が地味だったコミュ症ボツチ。』

「『よろしいならば戦争だ！』』

この後めちやくちや口喧嘩した

【翌日】

「タスケテ。」

「田中君？ 私のお弁当は食べないのですか？」

「なんで姫島先輩が転入生にお弁当食べさせてるの!？」

「まさか田中君ってお金持ち？」

「姫島さんと言う関係？」

「おのれ転校生、二大お姉様と親しげに！ 殺す！」

「落ちて着け松田。」

妹よ、姫島さんに何をした？ 中学一年の時しばらく俺と妹と一緒に悪魔関連の仕事で行動してたけどこの人妹に何された!?!?

「嗚呼……愛おしいご主人様。」

妹よおおおおお！ 本当に何をした！ 確かに昔のこの人お淑やかなのにメスガキみたいだったけど、わからせろとはお兄ちゃん言った覚えがないな！

『心の中で喋りまくる癡治して現実で喋ろうな。』

うるせえ！ 口下手なめんな！

「貴方と俺は一緒にお弁当を食べる中じゃないはずですが？」

「貴方と一緒に弁当食べれる時間は至福ですわ。それに昔は一緒に海で泳いだりした

でしょ?」

ん?全然神器の力が効きませんか?

解説の百面さん!

『効かないと言うか……聞かないと言いますか……』

なるほど!思い込みが激しいと言葉が届かないのね!俺の妹もそうだからわかるよ、もう僕嫌だ!

「田中ああああああ!俺は兵藤一誠、モテたい男だ!」

「そうか!俺は田中太郎、注目を浴びたくない男だ!ゆえに黙れ!そしてほつといて!」
「綺麗なお姉様にモテる方法を教えてくれ!」

「努めて『紳士』でアレ!」

「あざっす!」

頑張れ、友よ。

「押し倒せつてことだな!」

「なるほど、コイツは馬鹿だ!」

本当にこの馬鹿さがなければ話しやすい良い奴なんだけど。

【翌朝】

「彼女ができたぞ!」

「えー！」

「そんなに驚く！」

嘘だろ、この性欲に忠実すぎるこの男に恋人！

「ヒイヒイ言わすのか？」

「言わさんわ!? 普通に清く正しい男女交際だ！」

「本音は？」

「エロいこともしたいです！」

「わかる！」

『わかるな。』

百面よ、男は悲しい生き物なのよ

「というわけで、ハーレムを作る方法を教えてくれ！」

「バーカバーカ色情魔、彼女できたのになに聞いてんだwwwwお前なんか美女に囲まれて、男どもに嫉妬されてろ(笑)…… あっやっちゃまった。」

『草。』

墮天使をさらに墮天したら何になるんだろ

やあ、ぼく○ツキー！H A H A♪

『夢の国に消されるぞ！』

覚悟の上よ！それより

「田中くーん??なんで俺たちの前に立ち塞がってんのかな?」

「俺たちは彼女ができたイツセーを処刑しなくちゃいけねえんだけどな?」

兵藤お前は友達を選べ！コイツら目が座ってる!!?

「イツセーに彼女はいない!」

「殺す。」

「ダメだ全然言霊が効かない。」

『コイツらなんなんだ!!?』

怖いよ

「眠れ!」

「お婆!」

お婆?・恐ろしく早い手刀で眠らせたが酷い断末魔だ

ところで誰だお婆とは？

『お婆とはアテクシの事にございませし(笑)。』

黙れ百面、そのネタは面白いと思うが今から兵藤を尾行する

そしてあわよくば尊い純愛を拝むのだ

ゆえに俺好みの冗談は後にしてくださいまし

『イエッサー！』

ターゲットが見えた

いざ純愛！

「グオオオオオ！デートって何すればいいんだ！」

は？

兵藤と黒髪のメガトン級別嬪さんが頭を押さえて絶叫してりゅ？

ドユコトヨ！！？

『田中隊長！こちら百面二等兵、状況を報告するであります！』

よし報告しろ！

『アイツら恋愛クソ雑魚（震え声）。』

マジか！

『後女の方は墮天使であります！』

うん？最近何かやらかそうと街に侵入してきた奴らか

つまりあの女兵藤のこと騙して殺そうとしてんのか

なるほど……穴という穴にピーナツ突っ込むか（怒）

『貴様千葉の回し者か！（怒）』

まあどの道死刑だが念のため頭の中覗いてみるか

「なんで私は人間相手にドギマギしてるの！！？たかが人間風情に！……この服気

(? ^ ?) むっ? ニヤインが来たか

どれどれ

〔妹〕〔明日愛しの兄様の学校に転入します??〕

「嫌だ死にたくない!死にたくない!うわあああああああ
!!!!」